

6日 木曜

ペテロ I

3:13 もしあなたがたが良いことに対して熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。

3:14 たとえ義のために苦しむことがあっても、あなたがたは幸いです。人々の脅かしを恐れたり、おびえたりしてはいけません。

3:15 むしろ、心の中でキリストを主とし、聖なる方としなさい。あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでも、いつでも弁明できる用意をしていなさい。

3:16 ただし、柔和な心で、恐れつつ、健全な良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの善良な生き方をののしている人たちが、あなたがたを悪く言ったことを恥じるでしょう。

3:17 神のみこころであるなら、悪を行って苦しみを受けるより、善を行って苦しみを受けるほうがよいのです。

3:18 キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。

3:19 その霊においてキリストは、捕らわれている霊たちのところに行って宣言されました。

3:20 かつてノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたときに従わなかった霊たちにです。その箱舟に入ったわずかの人たち、すなわち八人は、水を通して救われました。

3:21 この水はまた、今あなたがたをイエス・キリストの復活を通して救うバプテスマの型なのです。バプテスマは肉の汚れを取り除く



ものではありません。それはむしろ、健全な良心が神に対して行う誓約です。

3:22 イエス・キリストは天に上り、神の右におられます。御使いたちも、もろもろの権威と権力も、この方に服従しているのです。

この手紙は迫害の中にいるクリスチャンたちに書かれました。ただしそこには、迫害を逃れるすべがあるわけではなく、また迫害に耐えれば祝福があると強調しているのでもありません。論点は意外にも全く別のところにあります。

「善に熱心である」こと、「弁明できる用意をして」いることが勧められているのです。そして十字架で身代わりとなって勝利した、イエス様の永遠のみわざを思うときに、クリスチャンも勝利することができるのです。当時のクリスチャンは、迫害にも命を捨てて戦えと教えられたではありません。ただ救いのすばらしさ、永遠の命の確信、キリストの苦難と勝利を共有しました。そこにこそ、今も変わらない信仰の強さが生まれるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

